

21年産予測全国指數 96

新潟県は やや不良

日 時間過去最短で水不足は回復

小雪の影響で長梅雨後の水管理に要注意!!

「日照時間最短に」8月1日付けの新潟日報朝刊の31面に7月の日照時間が、極めて短く、日本海側では平年の半分程度だったとう記事が載っていました。7月に例年のような好天続きになれば、各地で用水不足がおきてしまうことを心配していたのですが見事に裏切られてしまいました。自然界は人間の思うようにはいかないことを改めて思いい知らされた感がします。

湿度についての記事はありませんでしたが、ヘビースモーカーの私は煙草の火が中々点かず、しょつちゅうライライラしていましたので、湿度も結構高かつたのでしょうか。

日照時間が半分ならば、稻をはじめ植物の炭酸同化作用が半分になつてしまつては大変ですが、そこは自然界はうまく出来ていて、少ない日照時間を最大限に活用して成長してくれています。多くの雑草といわれている草たちはむしろ元気

生産者通信

NPO法人
ミニケーションセンター
定価 100円(送料込)

に繁茂しているように見えます。

しかし、ナスやオクラ等の夏野菜はその影響だと思われますが収量、品質共に劣つているようです。一方、稲の方ですが比較的日照不足には強かつたようです。

昔から刈羽柏崎地域は早揚米地域といわれてきましてが、4月末田植えの早期越路早生は7月20日前後に岡出穂、作付けが20%を超すこしいぶきも7月末には岡出穂しています。5月10日過ぎに植えたコシヒカリさえ、はしりが見え始めていますので、生育ステージは大きく狂つていないようですが、はしりが見え始めますので、生长期もしていないうえです。今後私たちができることは、出来るだけ長く飽水管理を続けることくらいでしょう。そうなると今から心配してもどうにもならないことですが水不足の事態です。適度に天からの恵みがあるとありがたいのだがと神頼みしかありません。

我が家の有機コシヒカリ水田は、トンボの羽化が遅れてしまつたことと、コナギやホタルイの手取り除草に手間取つて落水が7月に

A close-up photograph of a large, green, heart-shaped lotus leaf with prominent veins, surrounded by tall, blade-like grasses.

地震の後遺症で整地のために表土を剥いたところ、箇所から蓮が芽を出し、太きく葉をつけるまでに成長しました。少なくとも百年以上、あるいはもつと以前の種かもしれません。刈り取りがすんだらビオトープに移植してやろうと思っています。有機の稻作をおなつていることで、さまざま生き物との出会いを選んでいます。

入つてしましました。草の密度からすれば収量にはまったく影響がない程度の所が多かったのですが、来年以降に種を残したくないために、時間を見つけては除草に入つていました。そのため、暗渠を開けて落水後一ヵ月を経ても田面表層のところとろ層はそのまま、まさにクリーミーな状態で今後の天候が頼りです。

「自民党が大きくなり、躍進するだろう」とマスコミを先頭にまるで競馬の予想をするかのごとき風潮に陥っていますが、党利・党略や選挙戦術上だけの「マニフェスト」に惑わされずに、主権者である

削られてしまつていました
世界同時不況でその本質が
表面化しただけではないで
しょうか。

調製時の 異物混入の防止

石 翠 ゴミ

取扱シーザン前に確認を

(内山常蔵記)

入庫時の玄米水分量

うるち玄米 16.0%以下

釀造用玄米 15.5%以下

水分过多の場合、検査はできません

私たち自身が私たちの生活の安全・安心と将来を託せ

H P <http://www.eco-rice.jp/>

E-mail eco-net@nekonet.ne.jp

自然
利用の
摂理

コナギを田んぼで発見しよう!

黒い斑点の葉を見つけたら ご連絡ください!



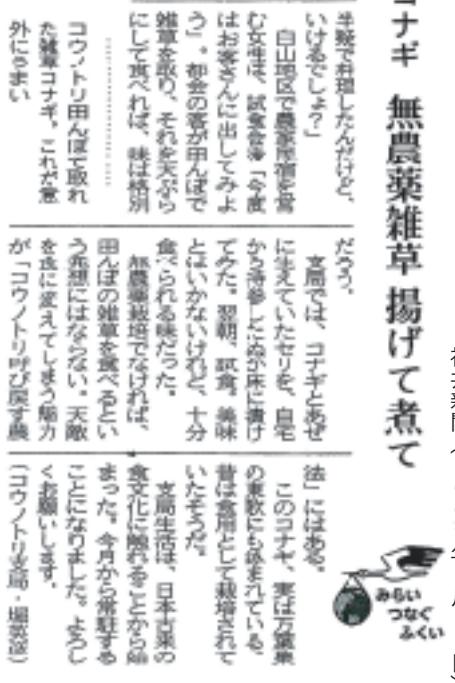
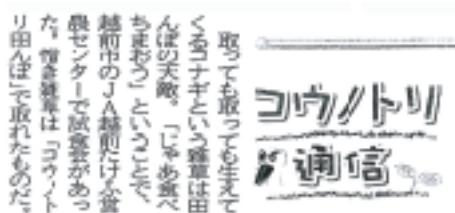
「コナギの枯れた一群

今年も有機圃場で「コナギ」が発生し、大勢の生産者が苦しめられています。コナギは冬の間に播種されて翌年の春に発芽しますが、嫌気性植物で還元状態(無酸素)になるとよく発芽します。除草剤の抵抗性がないために退治は容易ですが、最近では抵抗性を示すコナギが出現しています。

ところがコナギの群落の中で「黒い斑点」のある葉が、滅多に発見されませんが発生します。これは「カビ」におかされた状態でこのカビの生えた個体を専門家に分析してもらいます。これを培養してコナギに散布すれば退治できる可能性があるそうです。皆様の田んぼでコナギに黒い斑点を見つけたらご連絡ください。もしかすると、有機栽培くん。ご協力お願いします。

今年も有機圃場で「コナギ」が発生し、大勢の生産者が苦しめられています。コナギは冬の間に播種されて翌年の春に発芽しますが、嫌気性植物で還元状態(無酸素)になるとよく発芽します。除草剤の抵抗性がないために退治は容易ですが、最近では抵抗性を示すコナギが出現しています。

コナギ退治を「生物利用」の方法で環境にやさしく、全国で活用できる方法はないかと、らでいつしゅばー(株)上甲泰三氏に相談をしていました。今年の同社の圃場巡回でコナギの一群が枯れているものを発見しました。調べてみると細菌性の病気に由る枯れたものでした。この細菌を培養して散布すれば「生物利用」によるコナギ退治ができるのではないかと考えました。が、この細菌は乾燥すると死滅するとのことで実用は難しいようです。



月刊現代農業 (2005年5月号) より抜粋

アカガなぐて、うまい コナギ

田んぼの草を食べちゃおう!

コナギという雑草があります。無農薬栽培ではもっとも問題になる雑草で、冬季湛水水田に多く見られます。その姿を観察していると鮮やかな緑の葉っぱがチンゲン菜のように見えて、「あんかけ野菜炒めでいけるかもしれない」などと妙な妄想を呼び起こすようになってきました。

お浸し、空揚げ、ゴマあえなどに料理され、見ばえ良く小皿に盛られたコナギを試食してみました。結果、空揚げは完食され、お浸しは半分、ゴマあえは7割ほど残りましたから、コナギは空揚げで味が引き立つようです。

昨年、雑草に詳しい先生からいろいろ教えていただく機会がありました。その先生がおっしゃるには「ベトナムでは田んぼの草の大部分が食材に供されている」とのことです。

今まで「ゴミ」同様の扱いをされてきた田んぼの雑草ですが、考え方によっては何らかの「資源」として活用できる可能性のあるわけで、私たちの身の回りには意外なところで「お宝」が眠っているかもしれません。



コナギの天ぷら

<http://www.rurahetor.jp/gn.200505/konagi.htm>

商経アドバイス (2009年7月21日) より

有
JAS
規
機
S格

紙マルチは使用可能

有機栽培において暫定的に使
用が認められていた紙マルチと
シーダーテープが、JAS規格
の一般管理として恒常的に使用
が可能となる。先ごろ開催され
た農林物資規格調査会総会(JA
S調査会総会)で決まった。紙マルチとシーダーテープは、現行附則で今年10月26日ま
での間の使用が認められており、
その後の扱いについて協議が続
けられてきた。紙マルチについてはJAS調査会部会の審議で、
委員から「使用する古紙の限定
条件を規定するべきではないか」との意見が出され、総会で再度
検討することとなっていたが、
総会では特に意見が出されなか
った。そのため、「製造過程にお
いて科学的に合成された物質が
添加され、それが用いられる場合
に限り、紙マルチの使用が認められ
る」という条件のみでの設定にな
つた。